# 福井県管理河川 嶺南ブロック減災対策協議会 議事概要

日時:平成29年6月21日(水)14:00~14:55

場所:若狭町中央公民館 講堂

#### 【出席者】

福井地方気象台 内藤台長

敦賀土木事務所 近藤所長、小浜土木事務所長 西出所長

(以下代理出席)

敦賀市 下川危機管理対策課長補佐、小浜市 吉岡生活安全課長、美浜町 山口土木建築課長、

高浜町 時岡防災安全課長、おおい町 反田総務課長、若狭町 深水環境安全課長

近畿地方整備局 田村福井河川国道事務副所長(治水)

福井県 土木部 大槻参与、安全環境部 野路課長(防災対策)

### 【マスコミ】

福井新聞社、読売新聞、建設工業新聞

## 【主な発言 (発言順)】

≪各地域での取組状況≫

#### <敦智市>

- ・現在取組んでいる減災や防災の対策については、防災対策を考える上で、重要な要素である「自助・共助・公助」のうち、「共助」に当たる地域の防災力は、災害に強いまちづくりを推進するためには非常に重要であり、本市では各区の防災活動について資機材購入や訓練にかかる費用の助成などを行っているところであります。
- ・昨年度より地域防災力の向上のため、地域の実情に即した防災マップの作成を支援したり、今年の3月には、地図情報に加えて防災情報等を掲載した「防災ハンドブック」を地図メーカーと協働で制作し、市内全戸に配布いたしました。
- ・災害時の情報伝達手段として防災ラジオだけでなく、敦賀市防災メール (TonBoメール) や、 嶺南ケーブルネットワークの防災放送チャンネル、緊急速報メール、ホームページ等でもお知ら せをしております。
  - ・ここ数年、笙の川が氾濫する恐れがあることに伴い、避難勧告や避難準備情報を昨年度発令したところであり、水害に備え、今月の3日に笙の川右岸および古田刈公園において、水防訓練を 実施しました。今回の訓練では、栗野地区のみなさんにご参加いただくとともに、各水防工法の 習得に重点を置き、実践に即した訓練を実施しました。
- ・日頃から気象情報等の情報収集を行うとともに、庁内各部局、防災関係機関と連携をとりなが ら、市民の皆様に情報提供を行っています。

### <小浜市>

- ・県管理河川においては、維持管理に尽力いただきありがとうございます。
- ・小浜市では、江古川流域で県内初めてとなる災害危険区域の指定にこの6月議会で議案を上程

したところです。今後は、堤防の築堤に向けてお世話になります。

- ・若狭町、滋賀県境を源流とする北川、おおい町名田庄、京都府境を源流とする南川が小浜平野を蛇行しながら小浜湾にそそぐ地形のため、100年に1度の氾濫シミュレーションでは市街地やその周辺すべてが浸水想定区域になっています。また、源流から河口までの河川勾配が急であるために、降った雨が比較的早く河口まで到達するという特性があります。
- こういったことから、住民の安全を確保するためには、河川情報や気象情報の提供の他、避難情報の確実な伝達が求められており、このことから平成26年には、防災行政無線を整備しまして、 屋外拡声器の他に全家庭に戸別受信機を配備したところです。
- ・昭和28年台風13号により、北川、南川の堤防が決壊して、死者・行方不明者41人、被災者22,000人に上る甚大な被害を被ったこともある。そのこともあり、毎年出水期前に水防訓練を消防署、消防団員の参加を得て実施している。
- ・平成17年からは防災に関する出前講座を地域、地区に出向き、避難訓練やDIGのワークショップを実施している。
- ・自主防災組織 148 地区のうち 91 地区で組織され、結成率 62%と低いため、自主防災組織の結成には、力を入れていきたいと考え、補助制度の拡充、防災リーダー育成の講習会等をおこなっているところですが、毎年 3, 4 の結成率という状況になっている。

情報を共有させていただき、自主防災組織の結成にも役立たさせていただきたいと考えています。 <美浜町>

- 防災訓練を毎年実施している。
- ・防災訓練の中で水防関係では、土のうの作り方、積み方を毎年実施しており、今年は10月1日 に予定している。
- ・平成22年度から自主防災組織の立上げに努力しており、36地区のうち18地区で取り組んでいる。いろいろな機会で組織してもらえるよう各集落に働きかけている。自主防災組織には設立補助、資器材購入補助、運営補助を8集落に対して、補助を出している。
- ・平成19年度にハザードマップを作成し、各戸に配布した。しかし、実際周知されているかどうか疑問があり、一時避難所の見直しを含めて、今後、更新・周知を図っていきたい。

#### <高浜町>

- ・ハード事業として、標高が低い高浜駅前周辺で道路冠水、床上・床下浸水が発生しているので、 平成26年度から28年度の3年間で一旦雨水を貯留する雨水調整池を7年確率降雨で1箇所整備 し、29年度から2箇所目の雨水調整池の整備を進めている。
- ・ソフト対策としては、水防訓練を重点的に行っており、今年度は、6月17日(土)に実施して、自主防災組織の方々の意識が最近は高く、大勢の方が参加していただけました。
- 自主防災組織のリーダーおよび構成員の方に防災の研修会を実施しており、今年も7月に実施する予定です。

### <おおい町>

- ハード事業については、いろいろありますが、ソフト対策について述べたいと思います。
- ・監視カメラシステムについて、平成24年度と28年度に河川や避難道路の状況を災害対策本部で確認できるよう導入しました。現在13台の監視カメラのうち佐分利川の状況が確認できるカメラが3台、南川の状況が確認できるカメラが3台、役場や消防署の方から遠隔操作によって、

リアルタイムの動画を入手できるシステムとなっています。

おおい町のホームページでは、10分間隔の静止画を公表している。

- ・自主防災組織と連携した総合防災訓練の実施については毎年6月上旬におおい町水防訓練を実施しておりましたが、平成26年度以降は、水防訓練に自主防災組織の参画をいただいた総合防災訓練を実施している。今年度は6月11日に実施し、消防団、日赤奉仕団、名田庄久坂区防災会から60名の参加をいただき、住民避難や要支援者の搬送訓練、土のう作り、河川の決壊防止、避難所での段ボールベッド組立体験などに参加していただき行ってきました。
- 63の行政区のうち24区で自主防災組織が設立し、美浜町と同様補助を行っている。

#### <若狭町>

- ・平成25年台風18号で野木川が決壊、鰣川流域の三方五胡の周辺で冠水している。
- ハード対策として、嵩上げを実施した。
- ・毎年水防訓練、防災訓練を行っている。水防訓練は6月10日に行いました。 10月22日に防災訓練を行うが、各地域の地域づくり協議会の防災部門にも声をかけ、地域に合った防災訓練になるよう心掛けているところです。
- ・自主防災組織については、91 集落のうち 64 集落の約7 割で設立され、さらに強化を図るべく、 防災士の取得を目指すため、リーダー研修会等の参加を呼びかけている。
- ・北川では、国交省福井河川国道事務所と重要水防箇所の点検を実施、地元消防団にもその情報 を提供し、防災に努めている。

#### <福井地方気象台>

・本日梅雨入りし、これから本格的な出水期になる。

大雨警報(浸水害)、洪水警報の危険度分布をこの7月から新たに発表、ホームページに公開する。

気象庁は、水量を測っているわけでなく、降雨予測を基に、その河川が洪水の危険があるか、3 時間先の予測をして、色分けし危険度を表している。

中小河川以下、例えば水位周知河川以下についても流域に沿って、洪水の危険度を表すことができる。

- こちらの危険度分布も水位情報に加えて、避難勧告等の発令の基準に活用してもらえればと思います.
- ・大雨警報(浸水害)の危険度分布は、雨量予測に基づき、1 時間先までの予想を使って示される。
- ・これらは、新しい考えのため、なかなかなじみがないが、ホームページ等に公開していくことから、防災機関の中でご活用いただくとともに、住民の方に周知をしてもらえるとありがたい。 雨が降ったときに、これをどのように活用していくかこの協議会の検討のメニューに挙げてもらったら助かります。

### <福井河川国道事務所>

・先日、第3回九頭竜川・北川減災対策協議会を開催しました。九頭竜川・北川流域市町とは連携をしています。今回嶺南ブロックということで、北川に接していない市町とも連携ということで、ハード的な連携はいろいろ問題もありますが、ソフト的な連携では、先ほどもご紹介がありました訓練等も連携すべきと考えています。

・ユニークな取組として、「わが家の防災コンテスト」を今年で4回目になりますが、実施しています。福井豪雨から10年を契機として始めた取組です。年々参加人数が増えており、昨年は295点の応募があり、学校単位以外でも個人でも参加できるため、九頭竜川北川減災対策協議会に参加されていない市町についても気軽参加してもらえるのかなと思います。今年度はもう間もなく募集が始まります。

子供たちが家の周りの危ないところを見て回る。それを家庭に持って帰って、家族と一緒に連携するという取組なっています。地域の防災対策として活用してもらえればいい。

### ≪本協議会でどのような仕組にするか≫

### <敦賀市>

・住民目線のソフト対策、洪水を安全に流すためのハード対策を実現するためにも、各関係機関 との連携強化を図る体制作りが必要と考えます。

### <美浜町>

・災害時、ドローンによる監視体制の強化をいっていただきたい。